

奈良国立博物館「超・国宝一祈りのかがやき」

令和7年5月28日（水曜日）

参加者：6名



仏教は6世紀に朝鮮半島の百済を経由して日本に伝来したことになります。伝来して間もない7世紀（飛鳥時代）の仏像は左にあるように、写実というより絵画的というか妙にエロチックで足が実際より長く、また全体に実際の人物より細長く作られていて優雅さを感じます。私にはモジリアーニや竹下夢二の絵をほうふつさせ、妙に現代的な印象を受けさせました。



ガンダーラ仏、2世紀頃、
デリー国立博物館



マトクラー仏坐像、2世紀
頃、マトクラー博物館

奈良時代（8世紀）はより肉感的で明らかに古代インドやまた古代ギリシャ的な彫刻になっています。

左の写真は2世紀にインドで作られたガンダーラ仏です。こちらの仏像のほうが奈良時代の肉感的な仏像に近いように感じます。

飛鳥時代（7世紀）の仏像は世界や人々を大きく包み慈悲の心の象徴として作られているとの説明でしたが、造形として古代インドやギリシャ的でない形がどこから来たのか？ちょっと不思議でした。

平安時代（10～12世紀）には貴族好みのより優雅な仏像が作られましたが、平安後期から鎌倉時代（13世紀）にはより肉体美をリアルに追及したリアルを超えたリアル、つまり実際の肉体より特長部分を誇張してよりリアルに見せる形の追及が始まったとのこと、貴族

から武士好みへの変化ですね。



その代表が左の運慶が作った大日如来像です。この像は今回の私のベストワンで、最も魅力的に感じました。イケメン（仏像に性別はないそうですが）ですね。
さて、皆様はどうだったでしょうか？

今回の「超・国宝展」を観賞後、隣接の仏像館でさらにいろいろな仏像を観賞しました。
仏像館でのベストは下記「金剛力士像」ですね。その大きさ、存在感は圧倒的でした。



帰りに駅前の和カフェでスイーツを頂きました。

今後仏像を観る際には、今までと少し観かたが変わるかもです。

ご一緒頂いた皆様、ありがとうございました。



奈良公園でシカにご挨拶



博物館入口にて



お漬物バイキング茶粥茶論「月日星」での昼食



番外編



作成…風井